

2024年度環境経営レポート

(対象期間:2024年3月1日～2025年2月28日)



Shimizucho
 **清水長 金属工業株式会社**
Benefit for Future by FACE TECH

作成日： 2025年5月23日
更新日： -

環境経営方針

『省資源を図り、法を遵守し「地域・地球」の環境を守る』

■ 環境理念

清水長金属工業株式会社は、ものづくり基盤技術として表面処理である「電気めっき及び化学めっき」を1923年創業以来継続し、大切な地球資源といわれる金属鉱床・金属鉱物が枯渇することがないように、私たちのめっき技術【僅か数 μm ～数十 μm のめっき金属皮膜を金属製品上に付与することによって①めっき前の金属製品(材料)上にはなかった新たな機能的特性(硬い、柔らかい、電気伝導性が優れている、錆びにくい等)を与えている。②金属製品上にめっき金属皮膜を付与することによって、製品の期待寿命を伸ばし製品の付加価値・品質を向上させ、長持ちさせることで最終廃棄物の削減にも繋がっている。】に誇りをもち「かけがえのない地域・地球の環境を守り次世代に繋げていく」ことが大切である。

私たちが業として「電気めっき及び化学めっき」は、電力・ガス・水・化学物質等を使用します。これらの環境負荷物質を適切に管理・把握し、使用量、廃棄量を「少しでも①減らせられないか、②ムダな使用をなくせないか、③他のものにかえられないか」を含め、SDGsを通じ持続可能な社会に貢献し顧客様、社会から認められる活動とするために環境活動各分科会を中心に下記の行動指針を全社一丸となり、積極的に取り組んでまいります。

■ 行動指針

以下の指針に基づきCO₂排出量削減と省資源を図り、法を遵守し『地域・地球』の環境を守ります。

- (1) 環境関連の法令遵守(水質汚濁防止・大気汚染防止・土壌汚染防止など)
環境に関する法律及びその他顧客等の要求事項を遵守し、環境保全・公害防止に努めます。
- (2) CO₂排出量の低減(省エネルギー化・高効率化)の推進
電力・ガス等のエネルギー資源を有効利用しCO₂排出量低減や高効率化に努めます。
- (3) 廃棄物(産業廃棄物・事業系一般廃棄物)の3R化の推進
廃棄物の分別収集を推進し、再資源化など3R活動に積極的に取り組みます。
- (4) 節水活動の推進
工場で使用する水資源の節約や有効利用に積極的に取り組みます。
- (5) 化学物質の適正管理と有効利用の推進
処理液管理方法やめっき工法等を見直す事により化学物質資源の低減に努めます。
- (6) 環境啓発活動の展開
全社員が環境負荷低減を積極的に実践できるように、この環境経営方針を周知するとともに社外にも公表します。
- (7) 地域活動として社会貢献活動の展開
自社の環境整備・近隣住民・地域への環境配慮・こども110番・希少植物植栽協力に努めます。
- (8) 製品及びサービスに関する環境への配慮
環境に配慮した製品の開発・販売促進および工程プロセスの確立を推進します。
- (9) グリーン購入の推進
環境にやさしいエコ商品の優先購入や購買品の管理を推進します。

改定日 2024年 7月 26日

清水長金属工業株式会社

代表取締役 近藤 慶太

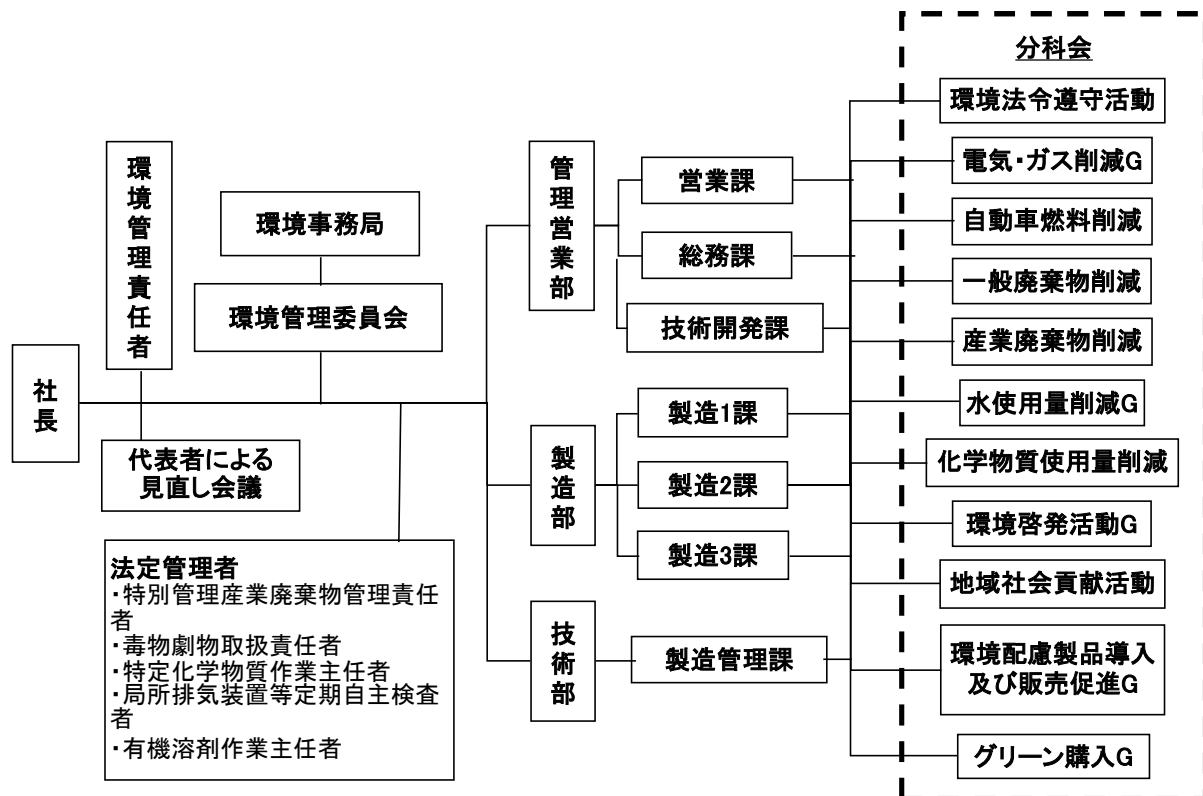
□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
清水長金属工業株式会社
代表取締役社長 近藤 慶太
- (2) 所在地
本社・工場: 京都市南区西九条高島町31番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 管理営業部技術開発課 課長 加藤 洋平
担当者(環境事務局) 技術部 製造管理課 係長 吉田 浩子
TEL: 075-681-7331
FAX: 075-691-2348
E-mail: c.s.-seizo@shimizucho.com
- (4) 事業内容
電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
主要加工品目
電気めっき(銅・ニッケル・クロム・錫・銀・亜鉛・黒ニッケル・錫-コバルト合金)
化学めっき(ニッケル-リン・ニムテック・トライボロン)
ブラスト (サンドブラスト・液体ホーニング)
- (5) 事業の規模
資本金 1,500万円 床面積 3,641㎡ 従業員数 58名(2025年5月現在、役員・パート含む)
- (6) 事業年度 3月～翌年2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 清水長金属工業株式会社
活動: 電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
対象: 全社・全事業

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	698,399	726,589	679,205	815,482
電力	kg-CO ₂	304,255	342,633	297,755	427,734
灯油	kg-CO ₂	29,133	26,892	30,029	30,478
都市ガス	kg-CO ₂	314,399	308,191	303,298	308,256
ガソリン	kg-CO ₂	6,503	6,684	6,748	6,774
軽油	kg-CO ₂	44,109	42,189	41,375	42,241
廃棄物排出量	kg	161,765	183,677	173,533	169,367
一般廃棄物	kg	3,649	3,578	4,029	3,272
産業廃棄物	kg	158,116	180,099	169,504	166,095
総排水量	m ³	35,040	36,122	35,535	31,754
水使用量	m ³	38,097	38,896	37,866	32,947
化学物質使用量	kg	3,770	3,659	3,745	3,217

* 化学物質使用量はPRTR法第一種指定化学物質の合計使用量

* 電力の二酸化炭素排出係数は 2021年度は0.318kg-CO₂/kWh,2022年度は0.350-CO₂/kWh
2023年度は0.309-CO₂/kWh,2024年度は0.420-CO₂/kWh

□環境目標及びその実績

項 目		年 度	基準年度	2024年度		2025年度	2026年度
				(目標) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力からのCO2排出 量削減 *1	kg-CO2	2023年度	297,755	297,755	314,690	329,449	312,643
		2023年度	297,755	100.0%	105.7%	110.6%	105.0%
都市ガスのからのCO2 排出量削減	kg-CO2	2023年度	303,298	303,298	300,896	315,006	303,298
		2023年度	303,298	100.0%	99.2%	103.9%	100.0%
自動車燃料からの CO2排出量削減	kg-CO2	2022年度	48,873	48,384	49,015	48,525	47,896
		2022年度	48,873	99.0%	100.3%	99.3%	98.0%
ニッケル化合物使用 量の削減	kg/百万円	2023年度	4.026	3.765	3.524	3.180	3.020
		2023年度	4.026	93.5%	87.5%	79.0%	75.0%
シアン化合物使用量 の削減	kg/百万円	2023年度	1.344	1.346	1.392	1.270	1.210
		2023年度	1.344	100.1%	103.6%	94.5%	90.0%
脱脂剤使用量の削減	kg/百万円	2023年度	0.426	0.399	0.458	0.416	0.405
		2023年度	0.426	93.6%	107.5%	97.6%	95.0%
一般廃棄物の削減	紙再生比	2022年度	27.8%	28.0%	31.0%	28.0%	28.0%
		2022年度	27.8%	28.0%	31.0%	28.0%	28.0%
産業廃棄物の削減	kg/百万円	2023年度	278.9	304.7	287.2	304.7	278.9
		2023年度	278.9	109.3%	103.0%	109.3%	100.0%
給水量の削減	m ³	2022年度	37,866	37,546	32,947	36,169	35,973
		2022年度	37,866	99.2%	87.0%	95.5%	95.0%
グリーン購入		—	—	*2			
環境配慮型めっき製 品の開発、販売促進 及び工程プロセスの確		—	—	*2			
地域社会貢献活動		—	—	*2			

*1 電力の二酸化炭素排出係数: 2023年度 0.309kg-CO₂/kWh

*2 数値目標設定が困難な為、行動目標を設定し活動した。

具体的な目標と実績は「環境活動計画と取組結果及び評価」を参照。

*3 化学物質使用量の削減目標に用いる売上根拠はニッケル、シアン、脱脂それぞれ使用するラインの2024年度の売上を用いた。(ニッケル: 301,757千円 シアン: 402,396千円 脱脂: 584,289千円)

*4 産業廃棄物の削減目標に用いる売上根拠は2024年度の全社売上584,289千円を用いた。

□環境活動計画と取組結果及び評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
電力からのCO ₂ 排出量削減			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
ピークカット、ピークシフト	○	継続	最終結果として目標対比CO2排出量+43.7、目標原単位0.64以上に 対し0.57という結果となった。目標達成できなかった理由としては期末 の売り上げ減と使用量10万kWhオーバーが大きな理由でもあったが、 毎月の結果を見ると数千から1万kWh程度基準年度を上回っており、 基準年度を下回った月は2回しかなかったことから別の要因も考慮し たほうが良いと思いますので来年度はその要因を掘り下げて目標を 立ててみてください。 取り組みについては日常からデマンドの監視や節電のための設備の メンテナンスが継続してできているかと思しますのでこれからよろし くお願いします。
5S、メンテナンス	○	継続	
新しい設備の導入	×	継続	
ガスからのCO ₂ 排出量削減			
数値目標	△	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
蒸気配管等のメンテナンス	○	継続	最終結果として目標対比CO2排出量-1%、目標原単位4.25以上 に対して4.10と排出量目標は達成することができた。期末に おける売上げ減少によって原単位目標は未達となりました が、CO2排出量目標は冬場に寒い日が続いたにも関わらず 日頃からの取り組みによって見事に目標に到達することがで きました。来年度の取り組みについてはガスの使用量のうち ほとんどがボイラーの使用によるものですので、そこに集中し て削減活動をするのも良いかもしれません。
保温材の取り付け修繕	○	継続	
効率的なボイラ利用方法の継続	△	継続	
ボイラー長寿命化の為にメンテナンス方法検討	×	継続	
自動車燃料からのCO ₂ 排出量削減			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
ノーマイカーデーを年2回以上実施	○	継続	最終結果として目標対比CO2排出量+9.2%と目標未達となっ た。この要因としてはやはりトラックのMT⇒ATへの変更に伴う 燃費の悪化と考えられる。これらは今後古いMT車をAT車へ 変更していくため、CO2排出量が増える傾向となってしまいま すが、MRでもお話しした通り、来期以降の目標はそれらの要 因を含めた目標を立てるようにお願いします。取組みについ ては無駄走りが減少し、ノーマイカーデーの実施等、計画通り 活動できていますので今後もよろしくお願いします。
燃費向上講習会を実施	○	継続	
車両の空気圧点検実施	○	継続	
エンジンオイル、エレメント点検の実施	○	継続	
無駄走りの削減	○	継続	
エコドライブコンクールへの参加	○	継続	
収集データの見える化	△	継続	
ニッケル化合物使用量の削減			
数値目標	◎	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
処理液の長寿命化	△	継続	最終結果として使用量目標対比-16.2%、単位使用量-6.5%以下⇒-7.3%と いずれも素晴らしい結果となった。これらの要因としては売上減少により 使用量が減ったからと考察されていますが、単位使用量目標も達成でき たということは無電解Niの日頃の管理が適切に行われ、不必要な液更新 をする必要がなかったとも見れますので素直に喜んでいいのではと思 います。来期は懸念されている通り、仕事量が減ると無電解Niめっき液の 使用頻度が減った際の安定剤管理やカビの混入防止策など、日頃のさら なる液管理が大切になって来るかと思しますので、取組み内容と目標と の相関がしっかりとれるような目標設定にしてみてください。
ニッケルめっき液の延命	○	継続	
手順書の策定	×	継続	
突発更新の防止	○	継続	
シアン化合物使用量の削減			
数値目標	△	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
青化銅に間欠フロアの設置・使用	△	継続	最終結果として使用量目標対比-3.8%、単位使用量+0.15%以下⇒ +3.0%と使用量目標は達成したが、単位使用量目標は未達。要因とし ては売上が低下したことによって使用量目標が達成し、単位排出量 目標は未達となったと考えられます。来期の目標については景気 の見通しがつきにくいところもありますが、半期のMRで見直すこともでき ますので、まずは低めに設定してみてもどうでしょうか。取り組みにつ いては課題が明確ですので、それを乗り越える対策が見つければ進 めるところまで来ています。
剥離液の管理	△	継続	
脱脂剤使用量の削減			
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
油分削減活動	△	継続	最終結果としては使用量目標対比+7.5%、単位使用量-6.5%以下⇒ +12.3%といずれも未達。目標に対して大幅増となったのはやはり更新 基準がないことは非常に大きいと思います。脱脂工程は前処理の重 要な工程の一つなので、品質上も更新基準を設けることが重要であ ると思います。 更新基準を設けるためには最初から完全な基準を設けるのではな く、恐らく妥当であるだろう線をまず引いて運用してみて、そこから適 切な基準を探るのも一つかと思います。
オーバーフロー防止対策の検討・実施	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	◎	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し
可燃物、紙くずの分別状況の定常化	△	継続	最終結果として再生比率28.0%以上⇒31.0%と素晴らしい結果となりま した。期首から良いスタートを切って、最後の2か月は少し失速しまし たが、見事に目標に到達することができました。達成要因はやはり分 別パトロールをととして分別の周知ができたことだと思います。来年 度以降ももっとくば恐らく分別意識が低下してしまいかもかもしれませ んで周知のほうをよろしく願います。また、来期の取組みとしてこ れまでは主に3Rのリユース、リサイクルに取り組んできましたがリ デュースに取組むとのことで、入り口を減らす活動は難しいかもしれ ませんが期待しています。
3Rの推進	×	継続	
ペーパーレス運動	△	継続	
マイ箸・エコバック運動等推進	△	継続	

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容	
産業廃棄物の削減				
数値目標	○	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し	
油分の減少等による廃棄減少	○	継続	最終結果として目標対比総排出量-10.0%、単位排出量+9.27%⇒-5.74%といずれも目標に到達することができました。12月と1月で排出量が当初より増えたため目標到達が厳しいかと思われましたが、2月に無事取り戻すことができました。内容を見ると排出量1位の無電解ニッケル及び2位の脱脂液はご指摘のとおり今後の更新管理基準が課題であることが見えますね。来年度の目標はそのあたりについて化学物質削減チームと協力して活動を進めてください。	
黒皮類の減少による酸の長寿命化	△	継続		
分別の徹底	△	継続		
不純物分析による適正管理	△	継続		
更新基準の適正管理	×	継続		
事前検知体制の強化	×	継続		
給水量の削減				
数値目標	◎	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し	
ホワイトボードに毎日の水量を記入	△	継続	最終結果として目標対比給水量-12.32%、原単位16.3以上⇒17.8と素晴らしい結果となった。この結果がなんとなく出た結果ではなく、各現場作業者の意識付けと実行が伴った結果であることはとても有意義なことであると思います。来年度以降も節水への周知を続けるとともに提案いただいたような環境側面だけでなく、品質や安全などほかの側面にも配慮した節水活動も進めていただければと思います。	
適正水量の把握	○	継続		
ライン毎に原単位目標を決める	○	継続		
夏季、年末年始の使用量監視	△	継続		
漏れ箇所の修繕	△	継続		
節水啓発ポスター掲示	○	継続		
グリーン購入				
グリーン購入手順書の見直し	△	継続	今年度は目立った活動があまりできなかったとのことですので来期に期待したいと思います。グリーン購入手順書も作成から少し時間が経ちましたので今の時代にあった手順書に見直すのも重要だと思います。また、手袋などの製造部材や梱包部材については使い方の見直しも大切ですが、「グリーン購入」チームとしては長持ちする備品など、コストだけでなくパフォーマンスも含めてコストで検討してみてください。	
啓発活動	×	継続		
省エネ設備、エコ商品の調査	○	継続		
グリーン購入リストの見直し	×	継続		
備品等の使用量削減に繋がる活動	○	継続		
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確立				
数値目標	×	□上方修正	□下方修正 ■基準見直し	
環境配慮皮膜の開発	△	継続	目標に対して大幅減となった今年度でしたが、引き合い件数が増えたことは来年度に少し光が見えてきたように思います。鉛フリートライボロンの実用化はラボテスト⇒スケールアップ⇒パイロットテスト⇒量産と大変な道のりがありますが頑張ってください。	
社内情報共有化	△	継続		
機能めっき膜の環境メリットの提供	×	継続		
地域社会貢献活動				
会社周辺の清掃活動	○	継続	今期も前期に引き続き近隣住民からの苦情0件を達成できました。その他会社周辺の清掃活動や京の生きもの再生プロジェクトでのフタバアオイとヒオウギの水やりなど毎日の活動ありがとうございます。特に今年は災害時に使用できる水道を取り付けて京都市に登録できたことが大きな成果の一つだと思います。来年度はこれらの活動に加えて飛び出し坊やの設置やAEDの設置の検討も進めて地域の方々と共生する企業づくりを進めていきましょう。	
エコキャップ運動	△	継続		
AED設置検討	×	継続		
花壇の花の入れ替え・木の剪定	○	継続		
こども100番活動・交通安全運動	△	継続		
京の生きもの文化協働再生プロジェクト	◎	継続		

口環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃酸、廃アルカリ、金属くず、廃ブラ等)
大気汚染防止法	局所排気装置、排風機
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検
水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の届出及び点検
下水道法	めっき設備、排水処理施設、局所排気装置
騒音規制法・振動規制法	空圧機、送風機
労働安全衛生法	集塵機、局所排気装置、めっき設備の点検、作業環境測定の実施等
消防法	シンナー、灯油の保管、消防活動阻害物質の届出
毒劇法	毒劇物の管理
PRTR法	特定化学物質の排出量及び移動量の届出
化審法	第一種特定化学物質使用の禁止

尚、関連当局からの違反指摘及び訴訟等は過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

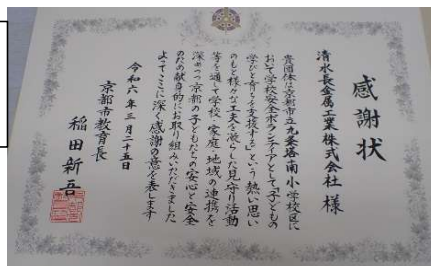
2024年度は売上低調が起因し、原単位目標未達成事項が約半分でした。
使用量・CO2削減目標のみ達成できた事象もありますが、単に喜べる結果と言えないものもありました。
活動実施状況としては、[環境目標・環境活動計画]で記載した通りでした。
昨今の環境問題やSDGs、人への環境変化を考えて見ると……
人混みの多い場所や公共交通機関では未だ多くの方々がマスクを着用されている光景をよく見かけます。
人の体力、免疫力が低下している背景があるか否かは不明ですが、
感染性胃腸炎、百日せき、溶連菌感染症、インフルエンザ、花粉症、黄砂飛来等様々で
多くの病原菌、埃が空气中に漂っている環境に変化してきたと言えます。

地球環境規模的に変化してきたと言えば、

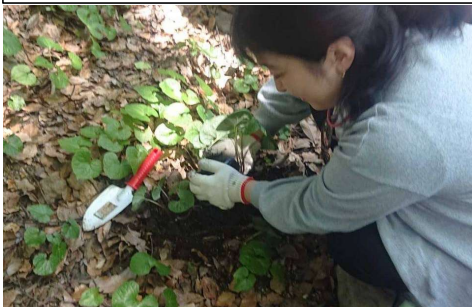
- ①地球温暖化(国内では夏期の猛暑日を超える酷暑日が続発)、
 - ②農作物の不作、
 - ③国際紛争の長期化で多くの人々・自然環境の破壊行為の継続等
- 様々ありますが、今私達が地球環境負荷抑制策としてできる活動は
【1.環境法令の遵守、2.無駄の排除、3.3Rの推進、4.CO2排出量の削減】等を
しっかりと継続・推進することに尽きると考えます。
皆さん、来期も引き続き活動をよろしくお願いします。

□環境活動の紹介

「子ども110番」活動協力に対し、京都市教育長様より感謝状を賜りました。
(令和6年3月26日)



社内で育てているフタバアオイを上賀茂神社に奉納しました。(葵里帰り)
(令和6年5月11日)



奉納したフタバアオイは令和7年葵祭にて葵柱飾りに使用されました。

豪雨・水害対策として、土のうを積み上げる訓練を行いました。
(令和6年5月25日)



京都市から「災害時協力井戸の家」の認定を受けました。(令和6年10月24日)

